保育専攻学生の表現・ダンスに対する意識とその学習における自己評価

宮　下　恭　子

研究目的

ダンスの教育は知的活動を伴った創造的な表現活動であり，身体運動によって自己を表す自己表現としての表現教育でもある[1)]。特にリズム能力の発達の著しい幼児のダンスは豊かな感情表現や創造力が見られ，心身の調和的発達を促進するものであるので，保育者を目指す学生にとって，ダンスや表現について学び指導力を身につけることは必須の課題である。しかし，遊びの指導の中でも，特に表現遊びやダンスの指導には苦手意識を持つものも多く，実習時や，就職後にこれらの指導に不安を感じている学生が多いことをしばしば耳にする。本研究では，「表現」および「ダンス」の授業を受講した学生が，ダンスや表現に対してどのような意識を持ち，授業に取り組んでいたか，また今後保育者としてどのような課題があるのかなどについて調査し，保育者に必要なダンスの資質の向上に役立てようとするものである。

研究方法

幼稚園教諭免許や保育士資格取得のための専門科目である「幼児体育」や「表現」の授業を受講した学生に対し，受講後にアンケート調査を実施した。

調査対象

東京都内の保育を専攻する学生２年生301名　（Ｔ短期大学生199名，Ａ女子短期大学生102名）

調査期日

2003年７月上旬

調査内容

1．ダンス全般（全般の好き嫌い，鑑賞すること，踊ること，ダンスの得意不得意，過去のダンス経験，学校でのダンス経験，大学でのダンス受講希望）
2．表現・ダンスの授業を受講して自己評価（ダンスの基本練習，簡単な創作，グループ活動，発表など）
3．教育実習を経験しダンスや表現の授業で学んでおきたかったこと（既成のダンス，リズムダンス，表現遊びの具体的方法，手遊び，歌遊び，ミュージカルなど）
4．表現やダンスの運動面での意義

5．運動あそびと表現やダンスとの比較

6．保育者になったときの課題や不安

回答は，3件法（または2件法）によるもの…3はい　2どちらでもない　1いいえ。5段階評定法（または3段階評定法）によるもの…5思う　4ややそう思う　3どちらでもない　2あまり思わない　1思わない。及び自由記述によるものであった。

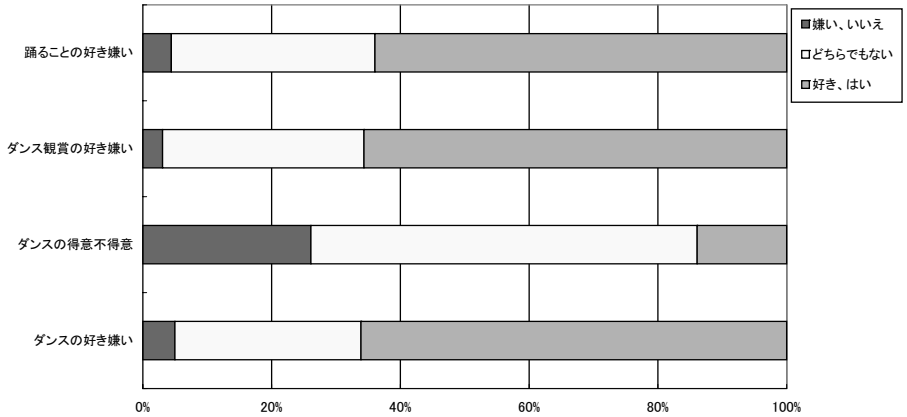
結果と考察

1．ダンス全般についての意識

図1はダンス全般の好き嫌い，鑑賞することと踊ることの好き嫌い，ダンスの得意不得意について，図2はダンスの経験および大学でのダンス受講の希望についての回答結果を示したものである。

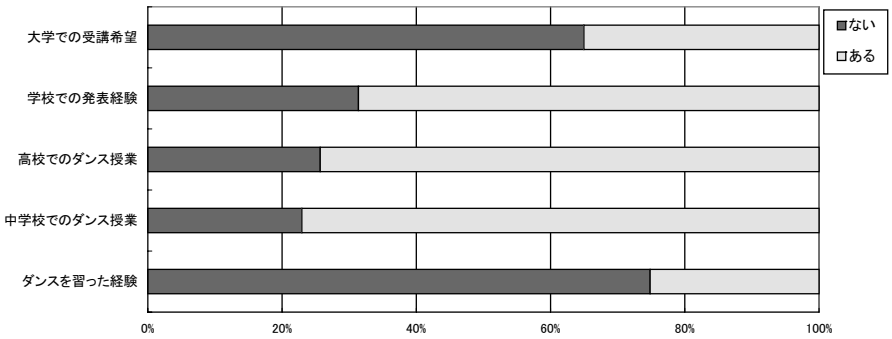
①ダンスの好き嫌いについて

図1　ダンス全般



	ダンスの好き嫌い	ダンスの得意不得意	ダンス観賞の好き嫌い	踊ることの好き嫌い
■好き、はい	66.1	13.62	64.12	62.46
□どちらでもない	28.9	58.8	30.56	30.89
■嫌い、いいえ	4.98	25.58	2.99	4.32

図2　ダンスの経験



	ダンスを習った経験	中学校でのダンス授業	高校でのダンス授業	学校での発表経験	大学での受講希望
□ある	24.58	74.75	72.09	66.11	31.89
■ない	73.09	22.26	24.92	30.23	59.14

66.1%（199名）の学生はダンスが好きと回答し，嫌いな学生は4.98%（15名）と少数であり，半数以上の学生がダンスが好きであった。また，踊ることが好きな学生は62.46%（188名）であり，

嫌いな学生は4.32%（13名）と少数であった。

②ダンスを鑑賞することについて

好きとの回答した学生は64.12%（193名），嫌いとする学生は2.99%（ 9 名），どちらでもないとする学生は30.56%（93名）であり，半数以上の学生は鑑賞することが好きであった。

③ダンスを踊ることについて

好きとする学生は62.46%（188名），嫌いとする学生は4.32%（13名），どちらでもないとする学生は30.99%（93名）であり，半数以上の学生は踊ることは好きであった。

④ダンスの得意不得意について

得意とする学生は13.62%（41名），不得意とする学生は25.58%（77名），どちらでもないという学生は58.8%（177名）であった。ダンスは好きという学生が多いが，ダンスが得意とする学生より，不得意と自認する学生の方がむしろ多かった。

⑤過去のダンスの経験について

過去にダンスを習ったことのある学生は24.58%（74名），ない学生は73.09%（220名）であり，習ったことのない学生が圧倒的に多かった。

⑥学校でのダンス経験

学校でのダンス経験は中学での授業で行った学生が74.75%（225名），高校での授業で行った学生が72.09%（217名）であり，体育祭や発表会などで66.11%（199名）の学生が発表の経験をもっている。

⑦大学でのダンス受講の希望

大学の授業でダンスの受講を希望するか否かにつては，希望する学生は31.89%（96名），希望しないは59.14%（178名）であり，大学での受講を希望しない学生が多かった。

以上の結果から，ダンスは観ること，踊ることを含めて全般に好きという学生が多いが，得意と自信をもって言える学生は少ないことが明らかとなった。

2．過去のダンスに関する調査との比較

筆者は1978年から1991年に学生を対象にダンスに関する意識についての調査を 6 回実施してきた[2),3),4)]が，最近の学生のダンスに対する意識やダンス経験には過去の学生との違いが見られることを感じている。そこで，今回は過去の調査といくつか同じ質問項目を取り入れ過去の調査結果と比較検討することにした。

表 1 〜 5 は10年前の調査結果と本調査結果を比較したものである。表 1 〜 3 から，現在の学生はダンス全般に好き，観ることが好き，踊ることが好きとの回答が大幅に増えている。また表 4 から習った経験についてもあるとの回答が増えていること，表 5 からダンスを得意とする学生が増え，不得意が減っていることが明らかとなり，過去と比べてダンスが学生にとってより身近で親しみのあるものとなり，また学校外でのダンス経験のある学生が増えていることが示唆される。

3．表現・ダンスの授業を受講して自己評価

表 1　ダンス全般の好き嫌い（%）

	1991年	2003年	増減
好き	35.1	66.1	↑
嫌い	14.2	4.98	↓
どちらでもない	50.1	28.9	↓

表 2　ダンス鑑賞の好き嫌い（%）

	1991年	2003年	増減
好き	46.1	64.12	↑
嫌い	7.6	2.99	↓
どちらでもない	45.1	30.56	↓

表３　踊ることの好き嫌い（%）

	1991年	2003年	増減
好き	32.6	62.46	↑
嫌い	19.6	4.32	↓
どちらでもない	40.1	30.96	↓

表４　ダンスを習った経験（%）

	1991年	2003年	増減
ある	15.0	24.58	↑
ない	82.2	73.09	↓

表５　ダンスの得意不得意（%）

	1991年	2003年	増減
得意	5.1	13.62	↑
不得意	39.2	25.58	↓
どちらでもない	55.2	58.8	↑

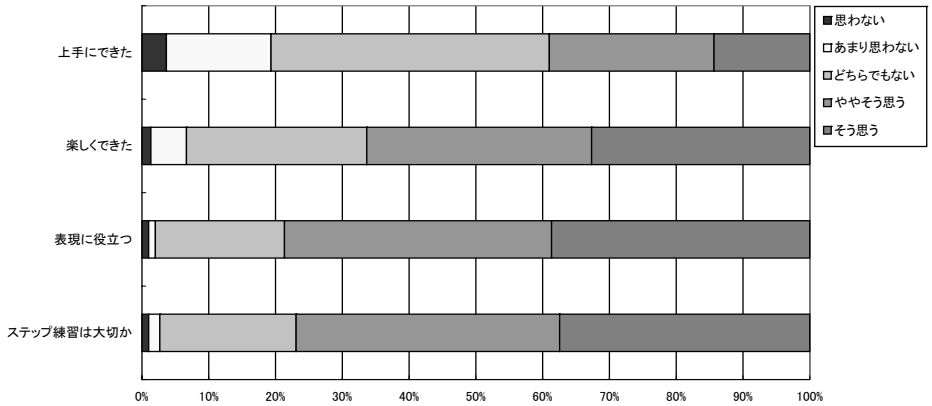
毎時の授業ではダンスの①基本ステップ②簡単な動きのフレーズ練習③２～４人組による即興や動き作り⑤６～８人組の課題創作と発表，学期末のテストではテーマを決めた５分前後のグループ創作ダンスの発表を実施した。この授業の受講後に学生たちの感想や自己評価について次のような質問をした。

①ダンスの基本運動について②簡単な創作について③グループでの創作について④自己の表現について⑤リズミカルな動きと表現について⑥ダンスの発表についてであった。

①ダンスの基本練習

図３から，「ダンスのステップ練習は大切である」との質問に37.21%の学生が「そう思う」と回答しており，「ややそう思う」を合わせると76.4%であった。さらに「ステップの練習は表現に役立つ」との質問に38.54%の学生が「そう思う」と回答しており，「ややそう思う」を合わせると77.41%であった。これらのことから多くの学生はダンス学習において基本ステップの重要性を認識しており，その意義を認めているといえる。また「ステップの練習は楽しくできたか」との質問には，66.14%の学生が「そう思う」と回答し，学習に半数以上の学生が充実感を示していた。一方，「ス

図３　ダンスの基本練習について



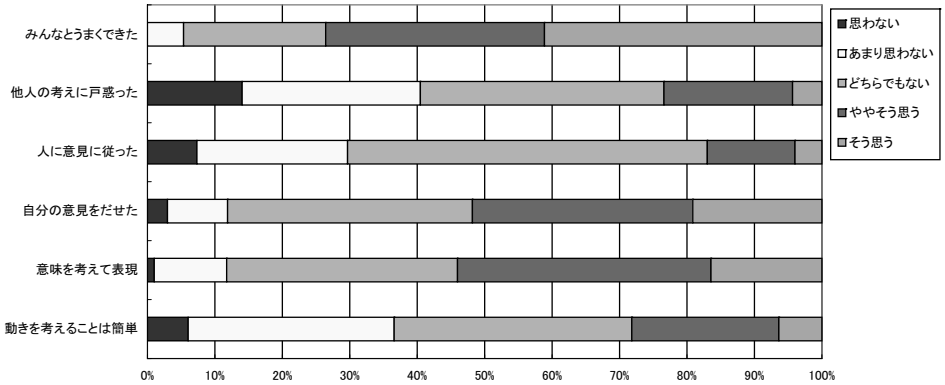
	ステップ練習は大切か	表現に役立つ	楽しくできた	上手にできた
■そう思う	37.21	38.54	32.56	14.29
■ややそう思う	39.2	39.87	33.55	24.58
□どちらでもない	20.27	19.27	26.91	41.53
□あまり思わない	1.66	1	5.31	15.61
■思わない	1	1	1.33	3.65

テップの練習は上手にできた」との質問には，「そう思う」「ややそう思う」を合わせて38.87%であり，「どちらでもない」は41.53%「思わない」は15.26%と自己の成果には必ずしも満足していないことがわかる。自由記述ではステップ練習に十分な時間がなかったことや，一つ一つの動きが完全にできない，個人個人に対する指導が行き届かなかったためとする不満足感が記されていた。こうした個人差のある学習に対しては，少人数で十分時間をとった指導が望ましいことが明らかとされ，授業の進め方にも工夫がもたれなければならないことが痛感された。

②創作について

図4から，動きを「考えることは簡単であった」という質問に対し，「そう思う」，「ややそう思う」との回答は27.9%であり，「思わない」「あまり思わない」も合わせては36.21%であったことから，動きを考えることに多少の苦慮が伺える。また，「表現の意味を考えて創作できた」については「そう思う」，「ややそう思う」は合わせ53.49%であり，「グループでの創作で，自分の意見を出せた」については，「そう思う」，「ややそう思う」を合わせると52.16%であり，表現の意味を考え積極的に取り組む姿勢が伺われ自己評価が高い。また「みんなとうまくできた」については「そう思う」，「ややそう思う」は73.1%，「いつも人の意見に従っていた」について「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて16.93%と少なく協調，協力して学習している姿勢が伺われるが，その反面「他人の考えに戸惑った」については「そう思う」，「ややそう思う」が23.3%と4分の1に近い学生が回答していることから，最近の学生におけるグループワークの難しさが垣間見られる。

図4　創作について

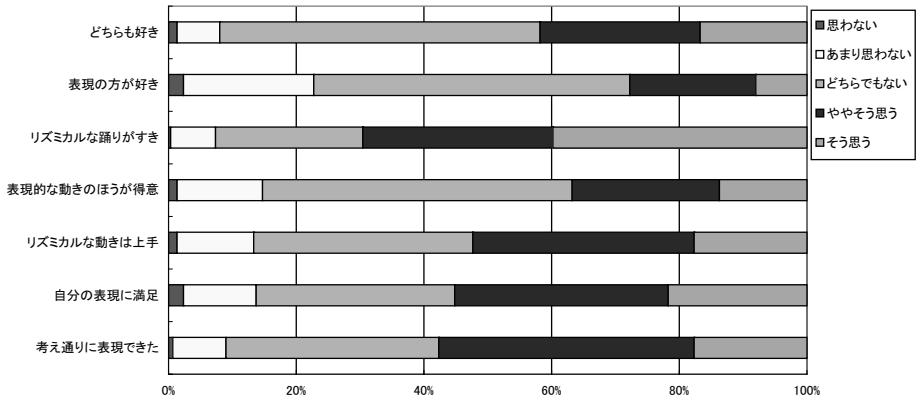


	動きを考えることは簡単	意味を考えて表現	自分の意見をだせた	人に意見に従った	他人の考えに戸惑った	みんなとうまくできた
□そう思う	6.31	16.28	19.27	3.97	4.32	40.86
■ややそう思う	21.59	37.21	32.89	12.96	18.94	32.23
□どちらでもない	34.88	33.89	36.54	53.16	35.88	20.93
□あまり思わない	30.23	10.63	8.97	22.26	26.25	5.32
■思わない	5.98	1	2.99	7.31	13.95	0

③自己の表現とリズミカルな動きについて

図5から，「自分の考えどおりに表現できた」について「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて57.5%であり，また「自分の表現には満足できた」について「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて54.81%であった。以上のことから半数以上の学生は自己の表現に満足感や充実感をもっていることがわかる。また，動きと表現の比較では「リズミカルに踊ることは好き」について「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて69.1%と多いが，「表現の方が好き」について「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて27.57%と少なく，最近の若者にリズム系のダンスを好む傾向の強いこと[5)]が伺われる。

図5　表現について

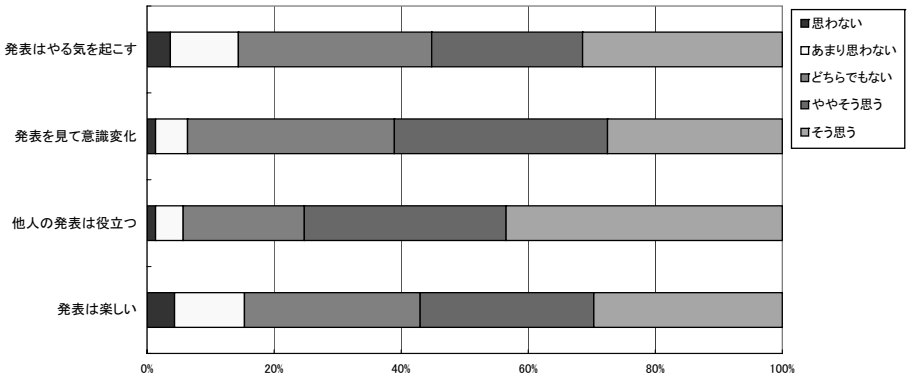


	考え通りに表現できた	自分の表現に満足	リズミカルな動きは上手	表現的な動きのほうが得意	リズミカルな踊りがすき	表現の方が好き	どちらも好き
そう思う	17.61	21.59	17.61	13.62	39.53	7.97	16.61
ややそう思う	39.87	33.22	34.55	22.92	29.57	19.6	24.92
どちらでもない	33.22	30.9	34.22	48.17	22.92	49.17	49.83
あまり思わない	8.31	11.3	11.96	13.29	6.98	20.27	6.64
思わない	0.66	2.33	1.33	1.33	0.33	2.33	1.33

④ダンスの発表について

図6から，「他人の発表は自分たちに役立つ」について「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて74.75%であり，「発表を見て意識が変わった」について「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて60.46%であることから，発表の意義を認め，他人の表現や考えが自己の向上心に繋がるように受け止めていることが伺える。また，「発表は楽しい」や「発表はやる気を起こす」についてはについて「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて，56.81%，54.82%と半数以上の学生が自分たちのダンスを人のも観てもらいたいと意欲があり，人前での発表はモチベーションを高めることに寄与していることが伺える。

図6　ダンスの発表



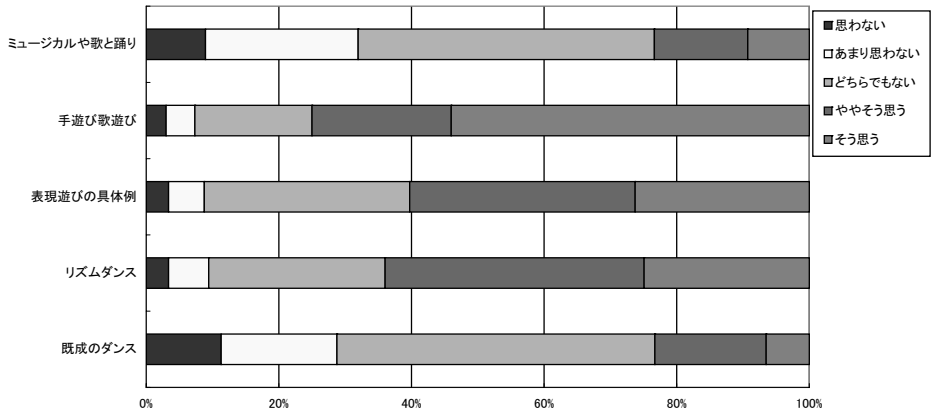
	発表は楽しい	他人の発表は役立つ	発表を見て意識変化	発表はやる気を起こす
そう思う	29.57	43.19	27.24	31.23
ややそう思う	27.24	31.56	33.22	23.59
どちらでもない	27.57	18.94	32.23	30.23
あまり思わない	10.96	4.32	4.98	10.63
思わない	4.32	1.33	1.33	3.65

4．表現やダンスの授業における課題

この授業の受講期間に学生は幼稚園の教育実習を経験した。その際に実習経験を通しダンスや表現の授業で学んでおきたかったこと（既成のダンス，リズムダンス，表現遊びの具体的方法，手遊び，歌遊び，ミュージカルなど）を質問した。

図7から最も多いものは，「手遊びや歌遊びであり」であり，「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて，74.75%，次いで「リズムダンス」が「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて63.12%であり，現場ですぐ役立つものを学びたいことが伺える。「表現遊びの具体例」も「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて，59.46%と多いが，「ミュージカルや歌と踊り」や「既成のダンス」は「そう思う」，「ややそう思う」は合わせて，22.59%，22.59%と少ないことから，時間のかかる練習を必要とするものより，手軽に憶えられて直ぐ実践に移すことのできる授業内容の習得を求めていることが伺える。

図7　ダンスで学んでおきたかったこと



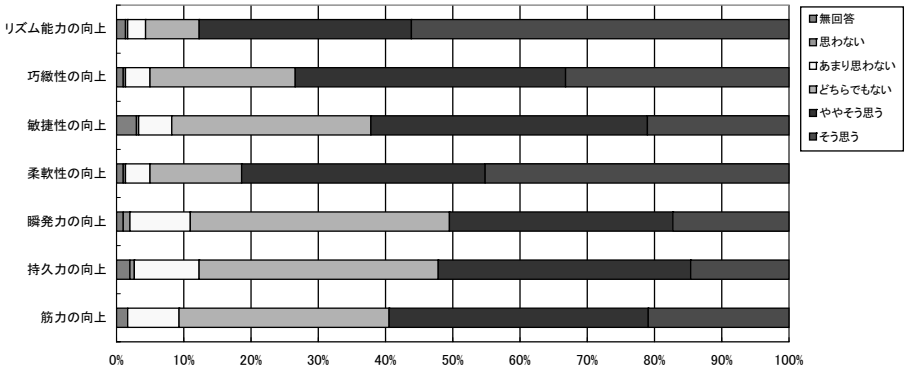
	既成のダンス	リズムダンス	表現遊びの具体例	手遊び歌遊び	ミュージカルや歌と踊り
そう思う	6.31	24.58	25.91	53.82	8.97
ややそう思う	16.28	38.54	33.55	20.93	13.62
どちらでもない	46.51	26.25	30.56	17.61	43.19
あまり思わない	16.94	5.98	5.32	4.32	22.26
思わない	10.96	3.32	3.32	2.99	8.64

5．表現やダンスの運動面での意義

表現やダンスは体育の授業の中で行なわれることがほとんどであり，身体運動を通して意志や感情を伝えるものである。その副次的効果として運動機能の向上に役立つものである。そのような点から考慮し子どもの運動機能向上のためにダンスはどのような役割を果たすものであるか，学生が自らのダンス実践を通して認識した運動機能面でのダンスの意義について回答を得た。

図8より，ダンスの運動機能面での意義は，1位リズム能力の向上，2位柔軟性の向上，3位巧緻性の向上，4位筋力の向上であった。ダンスは音楽に合わせて踊ることがほとんどであり，リズム能力の向上に役立ち，また表現力を助けるためには，関節の十分な可動による柔軟な動きや素早いうごき，機敏な動き，細かな動きによる表現のために巧みな動き（巧緻性）が必要ということは誰もが認めるところであるが，筋力の必要性は実際にやってみなければ実感し得ないものであることが認識されたようであった。このような結果からも，特に幼児期に発達の著しい調整力（神経系機能）の向上に役立つことが実践により理解され，幼児の学習教材として適切なものであることが認識されたものと思われる。

図８　ダンスの運動機能面での意義



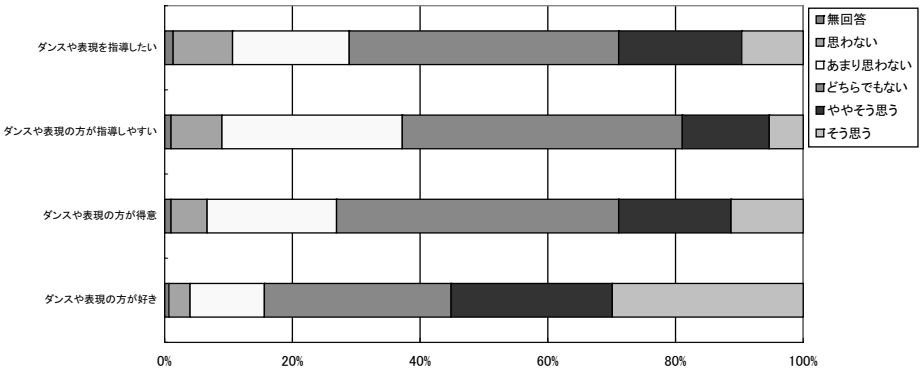
	筋力の向上	持久力の向上	瞬発力の向上	柔軟性の向上	敏捷性の向上	巧緻性の向上	リズム能力の向上
そう思う	20.93	14.62	17.28	45.18	21.26	33.22	56.15
ややそう思う	38.54	37.54	33.22	36.21	41.53	40.2	31.56
どちらでもない	31.23	35.55	38.54	13.62	29.9	21.59	7.97
あまり思わない	7.64	9.63	8.97	3.65	4.98	3.65	2.66
思わない	0	0.66	1	0.33	0.33	0.33	0.33
無回答	1.66	1.99	1	1	2.99	1	1.33

６．運動あそびと表現やダンスとの比較

幼児を指導することを前提にダンスと運動遊びの指導についての質問に回答を得た。

図９より，他の運動遊びと比べて「ダンスや表現の方が好き」の回答では「そう思う」,「ややそう思う」は合わせて55.15％と多いが,「ダンスや表現の方が得意」の回答では「どちらでもない」は44.19％と多く,「そう思う」,「ややそう思う」は合わせて，28.91％,「あまり思わない」,「思わない」は合わせて25.92％と回答が分かれた。また指導についても同様に「ダンスや表現の方が指導しやすい」の回答では「どちらでもない」は43.85％と多く,「そう思う」,「ややそう思う」は合わせて18.94％,「あまり思わない」,「思わない」は合わせて36.21％と回答が分かれた。さらに「ダンスや表現を指導したい」の回答では「どちらでもない」は42.19％と多いが,「そう思う」,

図９　ダンスと運動遊びとの比較



	ダンスや表現の方が好き	ダンスや表現の方が得意	ダンスや表現の方が指導しやすい	ダンスや表現を指導したい
そう思う	29.9	11.3	5.32	9.63
ややそう思う	25.25	17.61	13.62	19.27
どちらでもない	29.24	44.19	43.85	42.19
あまり思わない	11.63	20.27	28.24	18.27
思わない	3.32	5.65	7.97	9.3
無回答	0.66	1	1	1.33

「ややそう思う」は合わせて28.9%であるが，「あまり思わない」，「思わない」は合わせて27.57%と回答が分かれた。以上のことから，ダンスや表現は好きであるが，実際に指導するとなると積極的に指導できるほどの自信は未だないことが推察される。

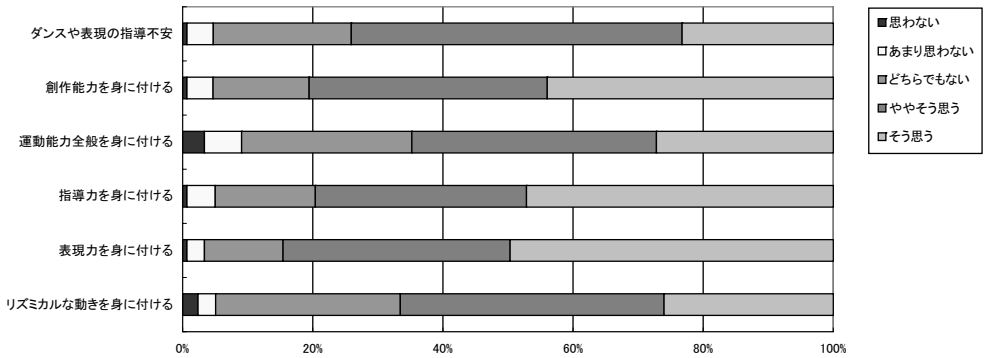
7．保育者になったときの課題や不安

保育者となった場合，ダンスや表現あそびの指導について不安と自分の課題について回答を得た。

図10に示したように「ダンスや表現の指導についての不安」には73.1%の学生が「大いにある」，「ややある」と回答しており，指導不安を持つ学生は多数であった。

また，そのために自分に必要な課題は何かとの質問には「表現力を身につける」は83.72%，「創作能力を身につける」は79.75%，「指導力を身につける」は69.07%，「リズミカルな動きを身につける」は65.45%，「運動能力全般を身につける」は64.12%と「そう思う」，「ややそう思う」と回答しており，指導不安を含めて，自己のダンス指導のための能力が十分でないと評価している。特に，表現や創作に関しての評価が低く，学習の難しさや自己の充足感が低いことが推察される。

図10　保育者としての自分の課題と指導不安



	リズミカルな動きを身に付ける	表現力を身に付ける	指導力を身に付ける	運動能力全般を身に付ける	創作能力を身に付ける	ダンスや表現の指導不安
□そう思う	25.58	49.17	46.84	26.91	43.52	22.93
■ややそう思う	39.87	34.55	32.23	37.21	36.23	50.17
■どちらでもない	27.91	11.96	15.28	25.91	14.62	20.93
□あまり思わない	2.66	2.66	4.32	5.65	3.97	3.99
■思わない	2.33	0.66	0.66	3.32	0.66	0.66

8．表現・ダンスの好き嫌いと自己評価•意識•課題との関連

本調査結果では一般にダンスが好きという学生が多いという結果を得たが，「好き」であっても，実際のダンスの指導を想定した場合，指導に対する不安が多く表現・ダンス学習における自己評価は高いとは言い難いと推察される。そこでダンスが好きな学生とそうではない学生に分けて，両群におけるダンスに対する意識や自己への課題との関連について検討する。

本調査結果ではダンスが好きという学生は199名（66.1%），どちらでもないという学生は87名（28.9%），嫌いという学生はわずか15名（4.98%）であるので，「どちらでもない」との消極的回答の学生と，はっきりと「好き」と回答した学生の意識の違いを検討するとにした。表6～11までは好きと回答したものとどちらでもないとしたものの意識についてカイ2乗検定による有意性を検定したものである。

表6から，ダンスの基本運動であるステップ練習に関する4項目とダンスが好きということに1%未満の優位水準で関係が認められた。すなわち，ダンスが好きな学生はステップ練習の大切さや表現への役立ちを認め，自らの学習も楽しく上手にできたと自己評価している。

表 6　ダンス全般の好き嫌いと基本練習について

ダンスの好き嫌い	ステップ練習 1			ステップ練習 2		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	3	30	68	3	30	68
好き	3	28	168	3	28	168
カイ 2 乗検定	χ^2＝11.67　＊＊			χ^2＝11.67　＊＊		
ダンスの好き嫌い	ステップ練習 3			ステップ練習 4		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	13	34	54	31	47	23
好き	7	47	145	27	78	94
カイ 2 乗検定	χ^2＝15.1　＊＊			χ^2＝21.31　＊＊		

＊＊……α＜0.01有意差あり
ステップ 1（ステップの練習は大切である）
ステップ 2（ステップの練習は表現に役立つ）
ステップ 3（ステップの練習は楽しくできた）
ステップ 4（ステップの練習は上手にできた）

表 7 から，創作に関する 2 項目とグループ創作に関する 2 項目に 1 %未満の優位水準で関係が認められた。すなわち，ダンスが好きな学生は動きを考えることは簡単で意味を考えて表現し，グループ創作では自分の意見を出し，みんなとうまくできたと評価しており，積極的な取り組み姿勢が伺える。

表 7　ダンス全般の好き嫌いと創作について

ダンスの好き嫌い	創作 1			創作 2			グループ創作 1		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	52	33	15	18	40	42	18	50	33
好き	57	72	69	17	62	119	15	60	124
カイ 2 乗検定	χ^2＝19.29　＊＊			χ^2＝10.51　＊＊			χ^2＝24.53　＊＊		
ダンスの好き嫌い	グループ創作 2			グループ創作 3			グループ創作 4		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	27	55	19	40	39	22	7	31	63
好き	62	105	32	81	69	48	9	32	157
カイ 2 乗検定	χ^2＝0.77　有意差なし			χ^2＝0.46　有意差なし			χ^2＝10.02　＊＊		

＊＊……α＜0.01　有意差あり
創作 1（動きを考えることは簡単）
創作 2（意味を考えて表現）
グループ創作 1（自分の意見を出せた）
グループ創作 2（人の意見に従った）
グループ創作 3（他人の考えに戸惑った）
グループ創作 4（みんなとうまくできた）

表 8 から，表現に関する 2 項目と動きに関する 3 項目でのダンスが好きということに 1 %未満の優位水準で関係が認められた。すなわち，ダンスが好きな学生は考えどおりに表現し，自分の表現には満足しているが，動きの面ではリズミカルな動きを好み，それを上手にできたと評価している。

表 8　ダンス全般の好き嫌いと表現について

ダンスの好き嫌い	表現 1			表現 2			リズミカル 1		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	19	47	35	28	40	33	21	43	37
好き	8	53	138	13	53	132	19	60	120
カイ 2 乗検定	χ^2＝38.23　＊＊			χ^2＝39.38　＊＊			χ^2＝16.54　＊＊		
ダンスの好き嫌い	リズミカル 2			リズミカル 3			リズミカル 4		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	18	51	32	14	43	44	24	55	22
好き	26	94	78	8	26	164	44	93	61
カイ 2 乗検定	χ^2＝2.21　有意差なし			χ^2＝49.88　＊＊			χ^2＝2.79　有意差なし		

ダンスの好き嫌い	リズミカル 5		
	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	16	61	23
好き	8	89	102
カイ 2 乗検定	χ^2＝28.13　＊＊		

＊＊……α＜0.01　有意差あり
表現 1（考えとおりに表現できた）　表現 2（自分の表現に満足）
リズミカル 1（リズミカルな動きは上手）　リズミカル 2（表現的な動きの方が得意）
リズミカル 3（リズミカルな動きの方が好き）　リズミカル 4（表現の方が好き）
リズミカル 5（どちらも好き）

表 9 から，ダンスの発表に関する 4 項目のうち，3 項目とダンスが好きということに 1 ～ 5 %未満の優位水準で関係が認められた。すなわち，ダンスが好きな学生はダンスの発表は楽しく，やる気を起こさせ，他人の発表は自分にとって役立つものであると捉えているが，特に意識変化をもたらすほどの影響力はない。

表 9　ダンス全般の好き嫌いと発表について

ダンスの好き嫌い	発表 1			発表 2		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	29	38	34	8	27	66
好き	17	45	137	9	30	159
カイ 2 乗検定	χ^2＝37.78　＊＊			χ^2＝8.03　＊		
ダンスの好き嫌い	発表 3			発表 4		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	6	40	54	26	34	41
好き	13	57	128	17	57	124
カイ 2 乗検定	χ^2＝3.83　有意差なし			χ^2＝20.1　＊＊		

＊＊……α＜0.01　有意差あり　　＊　……α＜0.05　有意差あり
発表 1（発表は楽しい）　発表 2（他人の発表は役立つ）
発表 3（発表を見て意識変化）　発表 4（発表はやる気を起こす）

表10から，ダンスの授業で学んでおきたかったことの中でミュージカルとダンスが好きということに１％未満の優位水準で関係が認められた。すなわち，ダンスが好きな学生はミュージカルという音楽とダンスの総合的な創作への意欲を持ちより高度な学習経験を求めていた。

表10　ダンス全般の好き嫌いと学んでおきたかったこと

ダンスの好き嫌い	既成ダンス			リズムダンス			表現遊びの具体的方法		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	29	49	22	13	26	61	9	31	60
好き	55	91	46	15	53	129	17	61	119
カイ２乗検定	χ^2＝0.15　有意差なし			χ^2＝2.27　有意差なし			χ^2＝0.01　有意差なし		
ダンスの好き嫌い	手遊びや歌遊び			ミュージカル					
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う			
どちらでもない	7	15	79	35	48	16			
好き	12	38	146	58	82	52			
カイ２乗検定	χ^2＝0.96　有意差なし			χ^2＝47.06　＊＊					

＊＊……α＜0.01　有意差あり

表11から，自己の課題に関する５項目および指導不安とダンスが好きということは関係が認められなかった。すなわち，ダンスが好きな学生でも指導に対する不安はあり，自分に対する５項目の課題はすべてあることを認めると評価している。

表11　ダンス全般の好き嫌いと自己の課題について

ダンスの好き嫌い	課題１			課題２			課題３		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	7	26	68	4	13	84	6	13	82
好き	8	58	129	6	23	168	9	33	156
カイ2乗検定	χ^2＝1.44　有意差なし			χ^2＝0.28　有意差なし			χ^2＝0.93　有意差なし		
ダンスの好き嫌い	課題４			課題５			指導不安		
	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う	思わない	どちらでもない	思う
どちらでもない	13	31	57	8	17	76	5	22	73
好き	14	47	136	6	27	164	9	41	147
カイ2乗検定	χ^2＝5.28　有意差なし			χ^2＝4.35　有意差なし			χ^2＝0.09　有意差なし		

課題１（リズミカルな動きを身につける）
課題２（表現力を身につける）
課題３（指導力を身につける）
課題４（運動能力全般を身につける）
課題５（創作能力を身につける）
指導不安（ダンスや表現の指導不安）

結論

「表現」および「ダンス」の授業を受講した学生が，表現やダンスに対してどのような意識を持ち，授業に取り組んでいたか，また今後保育者としてどのような課題があるなどについて調査した結果，次のような結論を得た。

1．ダンスは観ること，踊ることを含めて全般に好きという学生が多いが，自信をもって得意と言える学生は少ない。中学や高校での授業でのダンス経験のある学生が多く，また体育祭や発表会などで発表の経験が多い。

2．10年前の調査結果と本研究結果を比較してみると，現在の学生は観ること，踊ることを含めて全般にダンスは好きという学生が増えている。また習った経験のある学生やダンスを得意とする学生が増え，不得意が減っている。

3．ダンスの授業後の感想や自己評価では，多くの学生は基本ステップの重要性や意義を認めており，学習にも充実感を示しているが，練習の成果には必ずしも満足していない。創作については意味を考えた表現に積極的に取り組み自己評価も高く，協調，協力して学習している姿勢が伺われるが，その反面他人の考えに戸惑ったという学生が少なくないことから，最近の学生におけるグループワークの難しさが垣間見られる。自己の表現とリズミカルな動きについては半数以上の学生は満足感や充実感を得ている。動きと表現の比較ではリズム系のダンスを好む傾向が強い。ダンスの発表については半数以上の学生が人前での発表に意義を認めている。

4．実習経験を通しダンスや表現の授業で学んでおきたかったことは手遊びや歌遊びなど現場ですぐ役立つものや，手軽に憶えられて直ぐ実践に移すことのできるもの習得を求めている。

5．学生が自らのダンス実践を通して認識した運動機能面でのダンスの意義については１位リズム能力の向上，２位柔軟性の向上，３位巧緻性の向上，４位筋力の向上である。

6．ダンスと運動遊びの指導については，ダンスや表現は好きであるが，実際に指導するとなると積極的に指導できるかどうかの自信はまだもっていない。

7．保育者となった場合，ダンスや表現あそびの指導について不安を持つ学生は多数である。自分に対する課題も多く，ダンス指導のための能力，特に表現や創作に関しての自己評価が低く，学習の難しさや自己の充足感が低い。

8．ダンスが好きな学生とどちらでもないという学生のダンスに対する意識や自己への課題との関連について検討した結果，ダンスが好きな学生はステップ練習の大切さや表現への役立ちを認め，楽しく上手にできたと自己評価している。「創作」では動きを考えることは簡単とし，意味を考えた表現ができ，グループ創作では自分の意見を出し，みんなとうまくできたと評価しており，積極的な姿勢が見られる。「表現」では考えどおりに表現でき，自分の表現には満足し，リズミカルな動きが好きで上手にできたと評価している。「発表」はやる気を起こさせ，他人の発表は自分にとって役立つものであると捉えている。ダンスの授業で学んでおきたかったことでは，ミュージカルという音楽とダンスの総合的な創作活動への意欲を持ち高次な学習経験を求めている。自己の課題や指導不安とダンスが好きということは関係が認められなかった。

引用，参考文献

1）雨ヶ﨑俊子編著　ダンスの授業　東洋館出版社　1991

2）川村晴子他　大学正課体育におけるダンスの意義（１）　大阪女子短期大学紀要第８号　1983

3）川村晴子他　大学正課体育におけるダンスの意義（２）　大阪女子短期大学紀要第８号　1984

4）宮下恭子他　女子大学生のダンスに関する意識の検討　舞踊学第16 号　1994

5）村田芳子編著　楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス　小学館　2002